

様式(細則 5-2)

平成30年8月22日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため（視察・研修）を（実施・受講）したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 平成30年8月8日（水）9時45分～15時30分
- 2、研修内容 超異分野学会益田フォーラム
- 3、研 修 先 益田市(島根県芸術文化センター グラントウ)
- 4、調査経費 ガソリン代1,500円（自家用車利用）
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



「超異分野学会益田フォーラム」出席のため

平成30年8月22日

- 1 日 時 平成30年8月8日（水）9時45分～15時30分
- 2 場 所 益田市（島根県芸術文化センターグラントワ）
- 3 概 要

- ① このフォーラムは約500人が聴講した。超異分野学会は、これまでにない新しい研究や知識を生み出す場として、地域の健康、山林の利活用、農業現場の課題解決につながる研究プロジェクトを立ち上げ、技術革新をもたらすとしている。
- ② フォーラムでは、医食農連携とコンパクトシティーモデルをテーマに開催され、農林、水産、バイオヘルスケア、ロボット技術などの4分野で大学教授や研究者、企業人、生産者らが公開討論した。
- ③ セッション「ヘルステックモールを拠点に健康を可視化する」は、自分の健康を自分で管理し、健康状態を保つことが求められ、定年後も社会参加できる仕組みづくりの重要性が高まっており、商業拠点施設で健康診断の実施、健康情報の調査、住民と情報を共有し、健康づくりの指導など高齢化社会の新たな健康モデルを構築する。
- ④ 「放棄林地を活用した畜産の実現」は、中山間地域では高齢化が進み農林業の停滞、森林や農地の荒廃、経済的視点からも色あせつつあり、集落機能の低下は深刻になっており、放棄された林地の活用法として放牧による新たな肉用牛経営を目指す。
- ⑤ 「地域農業の技術革新」では、就農者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加や農業技術の継承ができず、地域の農業は様々な課題に直面しており、農業分野ではIT化や機械機器の高機能化など技術革新が進んでおり、この活用が課題解決につながる。

4 所 見

- ① フォーラムを企画・運営した㈱リバナスは、産業界と若手研究者とで新たな研究プロジェクトを生み出す、最先端科学の出前実験教室のビジネス化などを手掛ける企業であり、フォーラムには順天堂、鹿児島、島根など11大学、多くの企業などが参画しており、浜田市の取り組みの参考とすべきである。
- ② ポスターセッションでは地元企業から、(有)アグリみとは、いちご・米などを手掛ける農業生産法人で「いちご栽培の簡略化と高度化」と、㈱美都森林は農業、林業、木質バイオマス発電事業を手掛けており「山と農をつなぐ」と、高橋建設㈱は働き続けやすい環境整備と事業とし「高齢社会の働き方」などとそれぞれ発表があり、地元企業の参画は参考とすべきである。
- ③ 松永牧場の松永和平代表取締役は、広がる耕作放棄地での山林畜産の可能性について「肥育は難しいが繁殖なら可能性が大いにある」と持論を展開しており、浜田市に立地する松永牧場の副次的に畜産振興として期待したい。
- ④ 人口減少、少子高齢化の進行、基幹産業である農林水産業の後継者不足と人手不足、耕作放棄地の増加、放置山林の荒廃などが進行しており、現状を打開するには異分野や異業種の参入が不可欠であり、浜田市としても打開策を模索する。 —以上—